



©Yuki Asada

お母さんの優しさが詰まったポーチ

「素敵なモノを仕上げたら、みんなが幸せになれるのよ」。笑顔でそう話しながら、使い込んだミシンをカタカタ踏むお母さんたち。農作業の合間の針仕事は、女性たちの仕事。赤、青、黄、緑…。机の上に並ぶ色鮮やかな布が、見る見るうちに、かわいらしいポーチに生まれ変わっていく。

そんな“素敵なモノ”を日本に運んでいるのは、この地で活動した青年海外協力隊OGの美濃部智香さん。「コメどころで食べるものには困らない村ですが、雇用がなく、過疎化が進んでいました」。次々と都市に出て行ってしまおう若者たちを見ながら、お母さんたちはどこか寂しそう。その姿を目の当たりにした

美濃部さんは、「この村を元気にしたい!」と、日本でお店を立ち上げることに。店名は「Tam dii mii suk.」。ものづくりが幸せにつながる。そんな思いを込めたタイ語にした。

商品は洋服から雑貨までさまざま。デザインは農村の女性たちと相談しながら決めている。「タイに伝わる伝統を生かしながらも、日本人にも長く使ってもらえるよう、新しい流行も取り入れている」と美濃部さん。作業場はいつも笑いとアイデアであふれている。

お客さんも作り手も幸せになれるようなものづくり。女性たちの優しさにあふれたポーチを、ぜひ一度手に取ってほしい。



足踏みミシンは使い慣れたもの。代々受け継いできた技術だ

★タイのポーチを1人にプレゼント! → 詳細は38ページへ

★商品はホームページ(tamdiimiiisuk.thebase.in/)から購入可能。12月7~8日には北沢ギャラリーKasutelaで期間限定ショップを開店。詳細はfacebookの専用ページ(www.facebook.com/tamdiimiiisuk)へ。

